

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

緩下剤
センノシド錠 12mg「NIG」
Sennoside Tab.

剤形	糖衣錠
製剤の規制区分	なし
規格・含量	1錠中センノシド 20mg（センノシドA・Bカルシウム塩として12mg）含有
一般名	和名：センノシドA・Bカルシウム塩 洋名：Sennoside A・B Calcium
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2019年 1月 16日 薬価基準収載：2022年 6月 17日 発売年月日：1970年 8月 1日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	販売：武田薬品工業株式会社 発売元：日医工株式会社 製造販売元：日医工岐阜工場株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ https://www.nichiiko.co.jp/

本IFは2022年6月改訂（第20版，承継に伴う改訂）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ

<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

【IFの作成】

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VI. 薬効薬理に関する項目	9
1. 開発の経緯	1	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群 ..	9
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 薬理作用	9
II. 名称に関する項目	2	VII. 薬物動態に関する項目	10
1. 販売名	2	1. 血中濃度の推移・測定法	10
2. 一般名	2	2. 薬物速度論的パラメータ	10
3. 構造式又は示性式	2	3. 吸収	10
4. 分子式及び分子量	2	4. 分布	10
5. 化学名（命名法）	2	5. 代謝	11
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	6. 排泄	11
7. CAS登録番号	2	7. トランスポーターに関する情報	11
8. 透析等による除去率	11		
III. 有効成分に関する項目	3	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	12
1. 物理化学的性質	3	1. 警告内容とその理由	12
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ..	12
3. 有効成分の確認試験法	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由.....	12
4. 有効成分の定量法	3	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由.....	12
IV. 製剤に関する項目	4	5. 慎重投与内容とその理由	12
1. 剤形	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	12
2. 製剤の組成	4	7. 相互作用	12
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	4	8. 副作用	13
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	9. 高齢者への投与	13
5. 調製法及び溶解後の安定性	7	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与	13
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	7	11. 小児等への投与	13
7. 溶出性	7	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	13
8. 生物学的試験法	7	13. 過量投与	14
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	7	14. 適用上の注意	14
10. 製剤中の有効成分の定量法	7	15. その他の注意	14
11. 力価	7	16. その他	14
12. 混入する可能性のある夾雑物	7	IX. 非臨床試験に関する項目	15
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報.....	7	1. 薬理試験	15
14. その他	7	2. 毒性試験	15
V. 治療に関する項目	8	X. 管理的事項に関する項目	16
1. 効能又は効果	8	1. 規制区分	16
2. 用法及び用量	8		
3. 臨床成績	8		

2.	有効期間又は使用期限	16
3.	貯法・保存条件	16
4.	薬剤取扱い上の注意点	16
5.	承認条件等	16
6.	包装	16
7.	容器の材質	16
8.	同一成分・同効薬	16
9.	国際誕生年月日	16
10.	製造販売承認年月日及び承認番号	17
11.	薬価基準収載年月日	17
12.	効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	17
13.	再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	17
14.	再審査期間	18
15.	投薬期間制限医薬品に関する情報	18
16.	各種コード	18
17.	保険給付上の注意	18
X I.	文献	19
1.	引用文献	19
2.	その他の参考文献	19
X II.	参考資料	19
1.	主な外国での発売状況	19
2.	海外における臨床支援情報	19
X III.	備考	20
1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	20
2.	その他の関連資料	21

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤はセンノシドを有効成分とする緩下剤である。

「センノサイド錠」は、武田テバ薬品株式会社（旧大正薬品工業株式会社）が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験を実施し、1970年3月20日に承認を取得、1970年8月1日に販売を開始した。

1981年8月7日に再評価結果が通知され、効能・効果、用法・用量が変更された。（薬発第745号）

以下の販売名変更を行った。

承認年月日	販売名	旧販売名
2008年9月29日	センノサイド錠 12mg	センノサイド錠
2019年1月16日	センノシド錠 12mg 「武田テバ」	センノサイド錠 12mg

2022年6月1日、武田テバ薬品株式会社から日医工岐阜工場株式会社に製造販売承認が承継され、その際に販売名の屋号を「武田テバ」から「NIG」に変更した。

2022年6月17日に薬価収載され、日医工株式会社が販売することとなった。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤はセンノシドを有効成分とする緩下剤である。
- (2) 副作用（頻度不明）として、過敏症（発疹等）、代謝・栄養（低カリウム血症、低ナトリウム血症、脱水）、心血管系（血圧低下）、消化器（腹痛、下痢、悪心・嘔吐、腹鳴、腹部不快感、大腸メラノーシス）、肝臓（ALT（GPT）上昇、AST（GOT）上昇、 γ -GTP上昇、血中ビリルビン上昇）、腎臓・泌尿器（腎障害、着色尿）、全身症状（疲労）が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

センノシド錠 12mg 「NIG」

(2) 洋名

Sennoside Tab.

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

センノシド A・B カルシウム塩 (JAN)

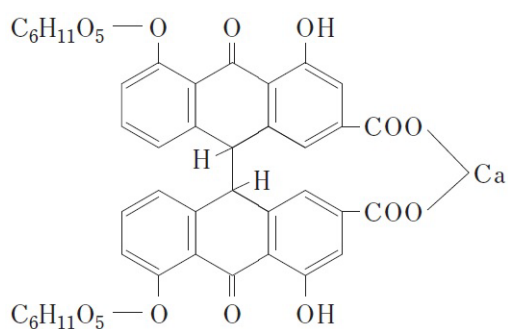
(2) 洋名 (命名法)

Sennoside A・B Calcium (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{42}H_{36}O_{20}Ca$

分子量 : 900.81

5. 化学名 (命名法)

5,5'-Bis(β -D-glucopyranosyloxy)-9,9',10,10'-tetrahydro-4,4'-dihydroxy-10,10'-dioxo[9,9'-bianthracene]-2,2'-dicarboxylic acid calcium salt (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

7. CAS登録番号

Sennoside A : 81-27-6

Sennoside B : 128-57-4

Sennoside A Calcium : 52730-36-6

Sennoside B Calcium : 52730-37-7

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

褐色～黒褐色の結晶性粉末である。

(2) 溶解性

水に黄褐色に溶け，エタノール（95），クロロホルムには溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点），沸点，凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 吸光度測定法

本品に氷酢酸を加えて溶かしろ過する。ろ液を BEA 試薬※に加えて加熱して融解するとき，液は紫色を呈し，この液は波長 574nm 付近に吸収の極大を示す。

※. BEA 試薬：ボルエシツヒゾイレアンヒドリド試薬

(2) 定性反応

本品の水溶液は日局一般試験法「カルシウム塩」の定性反応を呈する。

4. 有効成分の定量法

吸光度測定法

本品に氷酢酸を加えて溶かしろ過する。ろ液を BEA 試薬に加えて加熱して融解し，この液の波長 574nm 付近における吸収の極大波長での吸光度を測定する。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	センノシド錠 12mg 「NIG」
性状	暗赤色の糖衣錠
外形	
直径 (mm)	6.5
厚み (mm)	3.6
質量 (mg)	約 120
識別コード	TYK08

(2) 製剤の物性

(「IV. 4. 製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

(3) 識別コード

(「IV. 1. (1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分 (活性成分) の含量

販売名	センノシド錠 12mg 「NIG」
有効成分	センノシド
含量 (1 錠中)	20mg (センノシド A・B カルシウム塩として 12mg)
添加物	乳糖水和物, マクロゴール, ヒドロキシプロピルセルロース, ステアリン酸マグネシウム, ポリビニルアセタールジエチルアミノアセテート, 酸化チタン, 白糖, 炭酸カルシウム, タルク, アラビアゴム, ゼラチン, ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール, カルナウバロウ, サラシミツロウ, 黄色 5 号, 赤色 2 号

(2) 添加物

(「IV. 2. (1)有効成分 (活性成分) の含量」の項参照)

(3) その他

該当記載事項なし

3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

(1) 長期保存試験

最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存，5年3ヵ月）の結果，外觀及び含量等は規格の範囲内であり，本剤は通常の市場流通下において5年間安定であることが確認された。

◇センノシド錠 12mg 「NIG」 長期保存試験 [最終包装形態 (PTP 包装)]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間	
		開始時	5年3ヵ月
性状 <暗赤色の糖衣錠>	1 2 3	適合	適合
確認試験 (呈色反応，紫外可視吸収 スペクトル)	1 2 3	適合	適合
崩壊性 <60分以内>	1 2 3	14' 54"~18' 42" 15' 48"~23' 54" 14' 18"~19' 48"	20' 48"~29' 48" 21' 30"~27' 12" 33' 24"~42' 00"
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	1 2 3	101.10 100.54 98.49	95.74 97.32 95.75

※：表示量に対する含有率 (%)

◇センノシド錠 12mg 「NIG」 長期保存試験 [最終包装形態 (バラ包装)]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間	
		開始時	5年3ヵ月
性状 <暗赤色の糖衣錠>	1	適合	適合
確認試験 (呈色反応，紫外可視吸収 スペクトル)	1	適合	適合
崩壊性 <60分以内>	1	15' 00"~17' 42"	32' 18"~37' 36"
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	1	100.16	99.34

※：表示量に対する含有率 (%)

(2) 無包装の安定性試験

◇センノシド錠 12mg 「NIG」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <暗赤色の糖衣錠>	1 2 3	暗赤色の糖衣錠	暗赤色の糖衣錠であ った。わずかに光沢 がなくなっていた。	暗赤色の糖衣錠であ った。わずかに光沢 がなくなっていた。	暗赤色の糖衣錠であ った。わずかに光沢 がなくなっていた。
崩壊試験 <60 分以内>	1 2 3	17'44"~22'31" 19'24"~25'13" 16'37"~20'22"	19'34"~23'04" 18'20"~22'11" 18'03"~21'29"	18'47"~22'58" 18'11"~21'49" 16'46"~20'04"	19'51"~23'35" 19'40"~22'55" 17'09"~21'39"
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	1 2 3	99.3 98.7 101.5	98.6 99.0 100.3	96.2 97.3 98.6	96.2 98.0 98.8
(参考値) 硬度 (kg) n=5	1 2 3	3.1~4.3 3.0~3.6 2.8~3.6	2.7~3.2 2.9~3.6 3.2~3.7	2.8~3.4 2.7~3.2 2.9~3.7	3.0~3.5 2.7~3.1 2.7~3.5

※：表示量に対する含有率 (%)

◇センノシド錠 12mg 「NIG」 無包装 30℃・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <暗赤色の糖衣錠>	1 2 3	暗赤色の糖衣錠	くすんだうすいピン ク色の糖衣錠であ った。退色し光沢が なくなっていた。	くすんだうすいピン ク色の糖衣錠であ った。退色し光沢が なくなっていた。	くすんだうすいピン ク色の糖衣錠であ った。退色し光沢が なくなっていた。
崩壊試験 <60 分以内>	1 2 3	17'44"~22'31" 19'24"~25'13" 16'37"~20'22"	15'58"~20'47" 15'09"~19'02" 15'10"~18'36"	17'15"~19'49" 16'06"~20'21" 15'52"~19'34"	15'37"~19'07" 16'29"~19'25" 15'28"~18'03"
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	1 2 3	99.3 98.7 101.5	95.1 95.3 94.5	92.9 93.6 94.3	90.4 91.0 93.0
(参考値) 硬度 (kg) n=5	1 2 3	3.1~4.3 3.0~3.6 2.8~3.6	2.6~3.0 2.6~3.1 2.4~2.7	2.4~2.9 2.7~3.2 2.7~3.1	2.4~2.6 2.4~3.0 2.3~2.8

※：表示量に対する含有率 (%)

◇センノシド錠 12mg 「NIG」 無包装 25℃・60%RH・曝光 (2000Lx) [散光, 気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量				
		開始時	30 万 Lx・hr	60 万 Lx・hr	90 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <暗赤色の 糖衣錠>	1 2 3	暗赤色の糖衣錠	うすいピンク色 (退色した) の糖 衣錠	うすいピンク色 (退色した) の糖 衣錠	うすいピンク色 (退色した) の糖 衣錠	うすいピンク色 (退色した) の糖 衣錠
崩壊試験 <60 分以内>	1 2 3	17'44"~22'31" 19'24"~25'13" 16'37"~20'22"	18'37"~22'40" 18'55"~21'51" 17'18"~21'28"	18'58"~21'46" 16'49"~22'29" 17'01"~19'19"	17'49"~20'21" 18'06"~22'19" 14'03"~20'54"	19'12"~22'28" 16'31"~22'52" 17'42"~21'05"
含量 (%) ※ <90.0~ 110.0%>	1 2 3	99.3 98.7 101.5	100.8 101.0 100.9	100.3 100.5 101.9	100.7 101.3 102.3	100.7 101.3 102.9
(参考値) 硬度 (kg) n=5	1 2 3	3.1~4.3 3.0~3.6 2.8~3.6	2.9~3.8 2.8~3.4 2.9~3.4	2.6~3.5 2.7~3.4 2.8~3.7	2.9~3.5 2.7~3.3 2.8~3.5	2.8~3.6 2.9~3.1 3.0~3.5

※：表示量に対する含有率 (%)

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当しない

7. 溶出性

該当資料なし

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

吸光度測定法

本品の糖衣を剥離し、細粒としたものに水を加えてろ過し、ろ液を蒸発乾固する。得られた残留物を乾燥後、氷酢酸を加えて溶かした液を BEA 試薬に加えて加熱して熔融するとき、液は紫色を呈し、この液は波長 574nm 付近に吸収の極大を示す。

10. 製剤中の有効成分の定量法

吸光度測定法

本品の糖衣を剥離し、細粒としたものに水を加えてろ過し、ろ液を蒸発乾固する。得られた残留物を乾燥後、氷酢酸を加えて溶かした液を BEA 試薬に加えて加熱して熔融し、波長 574nm 付近における吸収の極大波長での吸光度を測定する。

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

便秘症

2. 用法及び用量

センノシド A・B カルシウム塩として、通常成人 1 日 1 回 12～24mg を就寝前に経口投与する。高度の便秘には、1 回 48mg まで増量することができる。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アンスラキノン誘導体

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序²⁾

センノシドは、経口投与後胃及び小腸から吸収されることなく、そのままの形で作用部位の大腸に達し、腸内細菌の作用でレインアンスロンに代謝されて瀉下作用を発現する。

(2) 薬効を裏付ける試験成績³⁾

瀉下効果

下痢症状等異常の認められない家兎を用い、体重 1kg 当たりセンノサイド A・B カルシウム塩 40mg 投与とし、体重 2.8kg の家兎に各 10 錠を強制経口投与した。

- ①下痢発現率：70%
- ②下痢発現時間：平均 5.78 時間
- ③下痢持続時間：平均 4.84 時間
- ④糞便数：コントロール群に比して明らかに糞便数が増加した。

(3) 作用発現時間・持続時間⁴⁾

センノシドの作用発現時間は通常 8～10 時間後である。

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

（「VIII. 10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照）

(3) 乳汁への移行性

（「VIII. 10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照）

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 本剤の成分又はセンノシド製剤に過敏症の既往歴のある患者
- (2) 急性腹症が疑われる患者，痙攣性便秘の患者〔蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある。〕
- (3) 重症の硬結便のある患者〔下剤の経口投与では十分な効果が得られず，腹痛等の症状を増悪するおそれがある。〕
- (4) 電解質失調（特に低カリウム血症）のある患者には大量投与を避けること〔下痢が起こると電解質を喪失し，状態を悪化するおそれがある。〕

【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが，特に必要とする場合には慎重に投与すること）】

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照）

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

腹部手術後の患者〔腸管蠕動運動亢進作用により腹痛等がみられるので，消化管の手術後は特に注意すること。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

連用による耐性の増大等のため効果が減弱し，薬剤に頼りがちになることがあるので長期連用を避けること。

7. 相互作用

該当記載事項なし

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹等
代謝・栄養	低カリウム血症，低ナトリウム血症，脱水
心血管系	低血圧
消化器	腹痛，下痢，悪心・嘔吐，腹鳴，腹部不快感，大腸メラノーシス ^{注2)}
肝臓	ALT (GPT) 上昇，AST (GOT) 上昇， γ -GTP上昇，血中ビリルビン上昇
腎臓・泌尿器	腎障害，着色尿 ^{注3)}
全身症状	疲労

注1) 投与を中止し，適切な処置を行うこと。

注2) 長期連用により発現することがある。

注3) 黄褐色又は赤色を呈することがある。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分又はセンノシド製剤に過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **副作用**：過敏症（発疹等）があらわれた場合には，投与を中止し，適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
なお，投与した場合，子宮収縮を誘発して，流産の危険性があるので，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には大量に服用しないよう指導すること。
- (2) 授乳中の婦人には，投与を避けさせることが望ましい。〔授乳中の婦人にセンノシド製剤を投与した場合，乳児に下痢がみられたとの報告がある。〕

11. 小児等への投与

低出生体重児，新生児，乳児に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。
(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

該当記載事項なし

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤	センノシド錠 12mg「NIG」	なし
有効成分	センノシド	なし

2. 有効期間又は使用期限

外箱，ラベルに表示（5年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取り扱い上の留意点について

該当記載事項なし

（2）薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目」の項参照）

（3）調剤時の留意点について

該当記載事項なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

PTP包装：100錠（PTP10錠×10），1000錠（PTP10錠×100）

バラ包装：1000錠（バラ）

7. 容器の材質

PTP包装：塩化ビニルフィルム，アルミニウム箔

バラ包装：褐色ガラス瓶，ブリキ製キャップ

8. 同一成分・同効薬

同一成分：プルゼニド錠 12mg

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	承認年月日	承認番号
センノシド錠 12mg「NIG」	2019年1月16日	23100AMX00082000

旧販売名	承認年月日	承認番号
センノシド錠 12mg「武田テバ」	2019年1月16日	23100AMX00082000

旧販売名	承認年月日	承認番号
センノサイド錠 12mg	2008年9月29日	22000AMX02164000

旧販売名	承認年月日	承認番号
センノサイド錠	1970年3月20日	14500AMZ00863000

11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
センノシド錠 12mg「NIG」	2022年6月17日

旧販売名	薬価基準収載年月日
センノシド錠 12mg「武田テバ」	2019年6月14日

旧販売名	薬価基準収載年月日
センノサイド錠 12mg	2008年12月19日

旧販売名	薬価基準収載年月日
センノサイド錠	1970年8月1日

12. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容

再評価結果通知年月日：1981年8月7日

販売名：センノサイド錠

内容：

	再評価結果	承認内容
効能又は効果	便秘症	習慣性・慢性便秘，手術後の便秘，弛緩性便秘，妊娠中の便秘，老人性便秘
用法及び用量	センノシドA・B(又はそのカルシウム塩)として，通常成人1日1回12～24mgを就寝前に経口投与する。 高度の便秘には，1回48mgまで増量することができる。 なお，年齢，症状により適宜増減する。	通常大人1日(1回)1～2錠を経口投与する。 年齢，症状により適宜増減する。

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目」の項参照）

16. 各種コード

販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
センノシド錠 12mg 「NIG」	2354003F2014	620480708	104807008

旧販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
センノシド錠 12mg 「武田テバ」	2354003F2448	620480707	104807007

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) Sasaki,K. et al. : Planta Med. 1979 ; 37 : 370-378
- 3) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (薬効薬理試験)
- 4) Piegsa-Quischotte,I. : Arztl.Wochr. 1954 ; 9 : 499-500

2. その他の参考文献

なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意

本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。

試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。

医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

(1) 粉砕

粉砕物の安定性試験

センノシド錠 12mg 「NIG」

センノシド錠 12mg 「NIG」の粉砕物安定性を室温、75%RH、室内散光下の保存条件で検討した結果、性状はこげ茶色であり、含量は全ての保存条件で規格内であった。

粉砕方法：糖衣を剥がし減圧乾燥後、乳鉢に取り乳棒で粉砕し、すりつぶして粉末とした。

● 粉砕物 室温

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間		
		開始時	2週	4週
性状	1	こげ茶色であった※2	こげ茶色であった※2	こげ茶色であった※2
含量 (%) ※1 ＜95.0～105.0%＞	1	96.9	96.4	97.3

※1：表示量に対する含有率 (%)

※2：糖衣をはがしたため

● 粉砕物 75%RH [開放]

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間		
		開始時	2週	4週
性状	1	こげ茶色であった※2	こげ茶色であった※2	こげ茶色であった※2
含量 (%) ※ ＜90.0～110.0%＞	1	96.9	97.3	97.8

※：表示量に対する含有率 (%)

※2：糖衣をはがしたため

● 粉砕物 室内散光下

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間		
		開始時	2週	4週
性状	1	こげ茶色であった※2	こげ茶色であった※2	こげ茶色であった※2
含量 (%) ※ ＜90.0～110.0%＞	1	96.9	97.9	96.7

※：表示量に対する含有率 (%)

※2：糖衣をはがしたため

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

センノシド錠 12mg 「NIG」

1) 試験方法

[崩壊懸濁試験]

ディスペンサーのピストン部を抜き取り、検体 1 個をディスペンサー内に入れてピストンを戻し、約 55°C の温湯 20mL を吸い取った。ディスペンサーに蓋をして 5 分間放置後、ディスペンサーを手で 15 往復横転し、崩壊懸濁の状況を観察した。十分な崩壊が認められない場合は、更に 5 分間放置後、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は、検体 1 個を分包し、上から乳棒で数回軽く叩いて検体を破壊し、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

[通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し、約 2~3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約 3 分の 2 を水平にし、注入端をその約 30cm 上の高さに固定した。注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐときのチューブ内の残存物の有無にて通過性を観察した。

2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
センノシド錠 12mg 「NIG」	10 分以内に崩壊・懸濁しなかった。	8Fr.チューブを通過しなかった。

本試験は、「内服薬 経管投与ハンドブック ((株) じほう)」に準じて実施した。

2. その他の関連資料

なし